

環境測定分析 統一精度管理調査について

(平成16年度環境測定分析
統一精度管理ブロック会議資料)

環境省 環境管理局

総務課 環境管理技術室



目次

1. 調査の目的
2. 調査実施体制
3. これまでの取組
4. 調査のあり方に基づく取組状況
5. 調査スケジュール
6. ブロック会議への期待

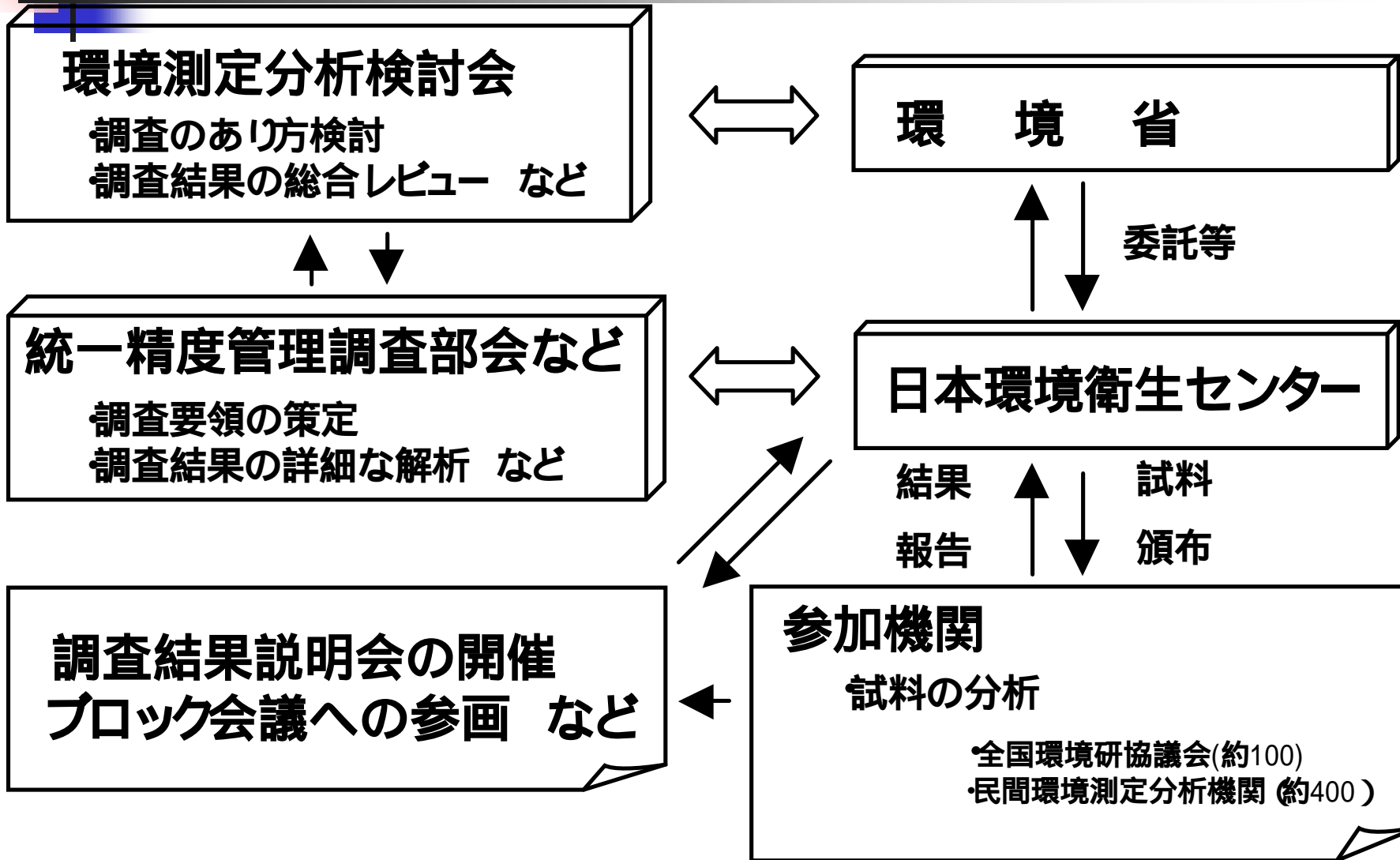
1. 調査の目的

- 環境測定分析の信頼性及び精度の向上
 - 調査実施サイトの視点
 - 分析機関におけるデータのばらつき実態を把握
 - 分析手法の特質等を検討して、分析手法、分析技術の改善に貢献
 - 調査参加サイトの視点
 - 自己の分析技術の確認・向上の契機
 - 分析技術ノウハウの蓄積・情報交換など
- 各分析機関の評価、格付け等を行うことは目的としていない

調査の位置づけ

- 内部精度管理
 - 組織・品質管理システムの整理
 - 文書・記録の保管
 - 内部監査 等
- 外部精度管理
 - 外部監査
 - 分析所間比較試験
 - ブラインドテスト 等

2. 調査実施体制



3.これまでの取組

- 昭和50年から調査を実施
- 多様な分析試料を対象とした調査
- 公募により多くの分析機関の参加
 - 公的機関(約100機関)
 - 民間機関(約400機関)

過去3年間の調査実施試料

MOE

年度	分析対象試料	対象試料の形態	分析対象項目
13	模擬水質試料	水溶液	COD、全磷、全窒素
	模擬水質試料	メタノール溶液	ニルフェノール、フタル酸ジ'nブチル、エチルベンゼン、塩化アリル、塩化ビニル
	ばいじん (ダイオキシン類)	ばいじん	PCDDs、PCDFs、コプラナーPCBs (異性体、同族体)
14	土壌試料	土壌	Cd、Pb、Hg、
	模擬水質試料	メタノール溶液	ニルフェノール、4-t-オクチルフェノール、4-n-オクチルフェノール、フタル酸ジ'nブチル、 インドスルファン、エチルベンゼン、塩化アリル、塩化ビニル
	模擬大気試料	窒素ベース	ベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン
	ばいじん (ダイオキシン類)	ばいじん	PCDDs、PCDFs、コプラナーPCBs (異性体、同族体)
	模擬排ガス吸収液 試料	水溶液	SO _x 又はNO _x
	模擬大気試料	人工空気ベース	ベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン
	低質試料	海域の底質	フタル酸ジエチルヘキシル
	土壌試料	土壌	鉛
	土壌試料	土壌	ダイオキシン類及びコプラナーPCB (異性体、同族体)

4. 今後の環境測定分析統一精度管理調査のあり方 (平成14年7月) に基づく取組状況

MOE

- 調査項目に関する長期計画の策定
- 情報システムの開発
- 解析・評価の高度化
- 室内精度の向上に向けた取組
- 調査結果の公表
- 調査結果の信頼性の確保に向けた取組
- 外れ値のフォロー

調査計画


		平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
基本精度 管理調査	水質・地下水 試料	COD、全機、 全窒素 (模擬水質試料)				金属類、農業等 (模擬水質試料)	
	土壌・底質 試料		金属類 (実試料)				栄養塩類 金属類 (実試料)
	大気試料			NOx, SOx等 (模擬大気試料)			
	生物、その他 試料				金属類 (実試料(廃棄物))		
高等精度 管理調査	水質・地下水 試料	要調査項目、内分泌攪乱物質 (模擬水質試料)			要監視項目、要調査項目、 内分泌攪乱物質等 (模擬水質試料)		
	大気試料		有害大気汚染物質 (模擬大気試料)等			有害大気汚染物質	
	土壌・底質 試料			内分泌攪乱物質、 ダイオキシン類等 (土壌・底質試料)			内分泌攪乱物質 等
	生物、その他 試料	ダイオキシン類 (ばいじん試料)					

- 平成14年9月に開設した統一精度管理調査専用のホームページ (<http://www.seidokanri.jp/>) を用いて、精度管理に関する情報の掲載、参加機関の募集、分析結果の報告等を行っている。
- 平成15年度の分析結果報告では、約80%の機関がホームページを活用した。

- ホームページからの分析結果報告書の作成に関するアンケート調査を実施したところ、改善を要望する意見が多数寄せられた。主な指摘事項は下記のとおり。
 - チャート類は別途郵送する必要がある、不便である。
 - 記入内容にわかりづらい部分がある。
 - 計算式の入力において、マイナス等の半角記号が文字化けした。
 - エクセル等との関連があるとよい。

- 平成14年度に引き続き、平成15年度は、ベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン及びジクロロメタンについて、統計解析手法を用いて実施した。
 - 外れ値の候補の自動検出と誤差の類型化
 - 分析結果の概観と傾向の把握
 - 誤差要因の解析

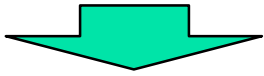
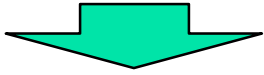
室内精度の向上に向けた取組

- 基本精度管理調査項目の模擬排ガス吸収液試料について3回の分析を依頼
- 
- 室内精度管理が室間精度管理に及ぼす影響について検討を行ったところ、NO_xとSO_xでは室内精度管理と室間精度管理の間に明確な傾向は見られなかった。

室内測定精度に関する解析 (SO_x)

室内測定精度 CV %	回答数	平均値 (mg/l)	室間精度	
			S.D.	CV %
1. 2未満	261	50.5	2.20	4.4
2. 2以上 5未満	19	50.8	3.92	7.7
3. 5以上10未満	4	47.8	3.41	7.1
4. 10以上	0	-	-	-

調査結果の公表

- 専用ホームページにより、調査結果の公表等を行った。
- 毎年度、調査結果報告書において各分析機関の分析結果の公表を行っている。

- 公表により分析機関の評価と誤解され、機関評価の意味合いが強くなると、誤差の要因が把握できない等の弊害が生じる可能性あり。

- 調査結果本文中に「各分析機関の分析結果は、分析機関の評価を示すものではない」旨を明記した。
- 分析機関のマイナス評価などに利用しているケースを発見した場合には、その旨の周知を図ることとする。

調査結果の信頼性の確保に向けた取組

- 社会的関心度が高いと思われる、ダイオキシン類分析用の土壌試料を4種類準備し、各参加機関に2種類をランダムに配布して調査を実施
- 平成15年度の室間精度は、同じ土壌試料であった平成11年度と大きく変わっていない。これは、分析技術は進歩しているものの、試料の配布方法を変えたため、改善の効果が相殺されたと考えられる。

外れ値のフォロー

■ アンケート調査

- 外れ値等を示した機関に対して、試料ごとにアンケート調査を実施し、棄却原因を調査した。
- 多数の機関が、アンケートにより、外れ値の原因を明確又は推測することができているとしている。
- ただし、各機関から報告された原因と添付資料等から推定される原因が異なる場合が見受けられた。

6.平成16年度スケジュール



H1 5調査結果公表

H1 5結果説明会開催

調査公募

調査実施

集計作業

中間報告

解析作業

調査結果公表

6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月

注意事項

スケジュールは、解析状況等により変更があり得る

ブロック会議への期待

- 地方環境研究所は法定受託事務としてモニタリングを実施していることから、地方環境研究所の精度向上は、重要な課題である。
- 地方環境研究所には地域の中核機関として指導的役割を果たしてほしい。
- 本会議が情報収集や情報交換の場として活用されることを期待している。

ご静聴どうも
ありがとうございました。